

『第30回東京ビデオフェスティバル(TVF2008)を開催』

TVF入賞おめでとうございます！
藤沢市立湘南台中学校の作品『授業』が佳作に選出



去る3月2日(日)第30回東京ビデオフェスティバル(TVF2008)発表・表彰式をパシフィコ横浜会議センターにて開催しました。

世界53の国と地域から2,010本の作品が寄せられ、その中からビデオ大賞、日本ピクター大賞、

SCMN
湘南映像祭新聞
Shonan Video Festival Newspapers

発行者
NPO法人
湘南市民メディアネットワーク
神奈川県藤沢市藤沢110-4
TEL/FAX 0466-62-2288
<http://scmn.info>

佐藤博昭氏によるセレクション上映＆トーク(3／1)を開催し、「作品を通じてコミュニケーションを広げる」という市民ビデオのコンセプトを実現することが出来ました。

日(土)の「TVF30年記念特別フォーラム」(横浜美術館)を皮切りに、「映像教育実践セミナー」、「TVF市民ビデオセミナー」を実施いたします。詳細はTVFホームページや湘南映像祭新聞などで随時ご案内していくので、楽しみにお待ちください。



湘南台中学校「授業」

湘南映像祭からの応募作品では、生徒の正直な気持ちを生徒や先生のインタビューを基に構成した「授業」を受け止めて生徒の気持ち」(藤沢市立湘南台中学校文芸部作)が入賞し、入賞者交流会(3／1)には、代表の森康祐氏や川合康央氏も参加していただき、国内外の作者との交流を活発に行いました。今年、TVFは節目の30回を迎えましたが、その記念イベントとして、6月14

インターネット(WEB)ライブ放送 『こんにちは映像ですが』試験放送開始!!

放送日時 毎週水曜日 12:40~13:10

湘南市民メディアネットワークホームページ

<http://scmn.info>

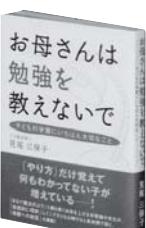
にアクセスしWebライブ番組配信へ

第4回湘南映像祭

4月より作品募集開始

主催 NPO法人湘南市民メディアネットワーク
協力 東京ビデオフェスティバル
鎌倉映像フェスティバル

かながわボランタリー活動推進基金 21ボランタリー活動補助金の助成を受けております



著書

『お母さんは勉強を教えないで』

草思社

小中高 個人教授 補習・受験 数英語

一人一人にこだわって 学習のコーチを40年

IQ 知と心 EQ

一ひらめく頭に変える一

ミオ塾

江ノ電 江ノ島駅 2分

ミオジュク

0466-26-3019

みんなの 湘南映像祭

青木輝勝（あおき てるまさ）

第1回 静止画・動画 をデジタル化する

読者のみなさま、こんにちは。東北大学准教授の青木輝勝と申します。もう2,3ヶ月前になりますが、本紙編集長の森康祐氏より私に電話が：「先生、原稿書いてよ。

なんでもいいからさ、先生ならちやちやっと書けるでしょ。できれば技術系の話がいいなあ。」という軽いお誘いが。これに首を縊つた私がアホでした。てっきり1回限りの原稿かと思いつきや12回連載のこと。話が違う」と何度も以降は無視され続け、我慢比での結果、ついには連載を引き受ける羽目になってしまいました。森編集長ならびに編集部の添田邦彦氏をご存知の方はよくわかると思いまが、彼ら独特の軽いノリに乗せられると思わず代償を払うことになります。明日は我が身かも。みなさまもお気をつけください。

さて、今回の第1回講座は、「静止画・動画をデジタル化する」です。そもそも画像情報をどうしてデジタル化する必要があるのでしょうか？この答えはただひとつ、「のちのちコンピュータ等を用いて加工しやすいため」です。例えば、図1をご覧ください。画像をあらかじめデジタル化することにより、画像を明るくしたり暗くしたり、あるいはぼかしたりといふことがとても簡単に実現できます。アナログ画像では「これらひとつつの加工がこのように簡単には行えません。

今も世界中の画像工学研究者により様々な研究が行われております。この「どうやって予測精度を高めるのか」については、今も世界中の画像工学研究者により様々な研究が行われております。この「どうやって予測精度を高めるのか」については、

この2つのデータ、一見まったく別物に見えますし、(b)のほうが含まれる情報量が少ないように見えます。ですが、実はこの2つある前提条件のもと、完全に同一であることが数学的に証明されています。別の言い方をすると、ある前提条件のもと、(b)のすべての点を通る曲線は図4の点線以外には存在しない、ということです。これを標本化定理と言います(サンプリング定理と呼ばれることもあります)。これにより、画像をはじめ元来連続量であるはずの様々なデータをデジタル化することができます。これにより、画像をはじめて、情報はいつさい失われず安心してコンピュータ処理でできる、ということになります。

さて、画像のデジタル化の利点をいくつか挙げてきましたが、逆に欠点はないのでしょうか？実は重大な欠点がひとつあります。これについては次号でお話をします。

あるいはもうと高度な例としでは、図2の画像修復があります。デジタル化された画像であれば(a)の劣化画像から(b)の修復画像を得ることも可能となります。もつとも(a)の画像は(b)の画像と比較して情報が一部欠損している状態であり、数学の力などを借りて欠損部分の情報を予測して修復する」となります。ですので完全に修復できるかどうかは予測が当たっているかどうかに依存しています。

(a)の画像は(b)の画像と比較して情報が一部欠損している状態であり、数学の力などを借りて欠損部分の情報を予測して修復する」となります。この「どうやって予測精度を高めるのか」については、

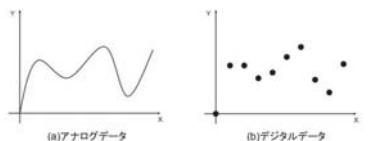


図3 アナログとデジタル



図4 標本化定理

というわけで、今回より12回の連載でコンテンツに関する身近な技術についてできる限りやさしく紹介してゆきたく思います。

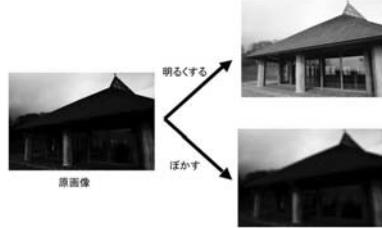


図1 画像の加工



図2 画像修復



青木輝勝
(あおき てるまさ)
東北大學生電気通信研究所
情報科学研究科准教授
文部科学大臣表彰若手科学者
賞(2007年4月)等を受賞

第2回鎌倉映像フェスティバル



テーマは「道」 10分以内の映像作品を募集します

募集期間：2008年7月1日～9月5日

審査・講評：大林宣彦監督

最優秀賞 賞金20万円 優秀賞(2作品) 賞金各5万円 観客賞

入選作品上映・授賞式：10月下旬 鎌倉生涯学習センターにて

主催：(財)川喜多記念映画文化財団 共催：湘南映像祭

後援：JCN鎌倉 プレアデス国際短編映画祭

問合せは(財)川喜多記念映画文化財団 TEL 03-3265-3281 info@kawakita-film.or.jpまで
(詳細は、ウェブサイトをご覧ください www.kawakita-film.or.jp)

